巻頭言

学長　久保清治

本年、横浜商科大学は、創立四十周年を迎えるにあたり、ここに『紀要』第九巻を記念号として刊行する運びとなり、関係者のひとりとして誠に喜ばしいかぎりである。

本学の『紀要』の発刊は、近年、第六巻が創立二十周年、第七巻が創立二十五周年、第八巻が創立三十五周年というように、開学以後の節目となった年を記念して発行しており、今回の第九巻も同様の事情で刊行することになった。

わが国における急激な時代変化の中で、本学が四十年の歳月を経て今日を迎えることができたのは、ひとえに本学教職員ならびに関係者の皆様方のご尽力の賜物と、厚くお礼申し上げるとともに、この刊行にあたって執筆や編集に関わっていただいた方々にも、この

紙面をかりて深甚の謝意を表したい。

周知のとおり、わが国における全ての大学は、学校教育法の改正により、七年に一回、文部科学大臣が認証した評価機関から評価を受けることが義務づけられた。本学は、すでに過去三回にわたり「自己点検・自己評価報告書」を作成して、学内における主要な問題点や改革点を抽出してきたが、このたびの認証評価義務を契機に、現在、より一層の改善のための事業展開が検討されている。

ところで、本学がこれより推進していく一連の実施事業は、左記の”認証“を得ること自体に目的があるのではなく、これを機会に、本学における教育サービスの質や専門研究の水準をより向上させるところに、その本来的目的があると考える。この教育と研究という大学の二大使命（これを「大学の原点」と表現する人もいる）を達成するうえで最も重要な役割を担うのは、言うまでもなく、担当者であるところの優れた活力ある教員組織である。

このたび、本学の専任教員により、大学の二大使命（Beruf）の一つである研究の成果の一部を本誌によって発表できたことは望外の喜びであり、今後とも継続してより実り多き研究の果実を期待したい。また、本学は、このたびの開学四十周年にあたり、大学として

の本来の役割と機能である教育と研究をさらに充実・強化し、社会からの期待や要請に応えられるよう今後も努力を積み重ねていく所存である。

「変化をしない大学は衰退する。変化しても原点を失う大学は衰退するか、大学であることをやめる。変化をとげながら、原点を失わない大学のみが真に繁栄する。」

（舘　昭『原点に立ち返っての大学改革』より）